

対応製品レベル	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
5.0a	システムリカバリ機能	システムリカバリサーバとシステムリカバリクライアントを共存させているとき、システムリカバリサーバをアンインストールするとシステムリカバリクライアントに必要なレジストリキーまで削除してしまう。	プログラムを改修しました。	上 上+資源OP 特上 Rel.5.0	システムリカバリサーバとシステムリカバリクライアントは同一コンピュータにインストールしないでください。	
	システムリカバリ機能	システムリカバリ管理機能で、以下の手順でサービスを作成すると「サービスの作成に失敗しました」のメッセージがでる。 1) 通常通りにSROサーバをインストール 2) SRO管理機能で任意のサービスを作る。(例:test) 3) SROサーバをアンインストールする。この時「管理DBを削除する」にチェックを入れた状態。 4) SROサーバを再インストールする。 5) SRO管理機能を起動して同じサービス名で再度「test」を登録しようとする。	プログラムを改修しました。	上 上+資源OP 特上 Rel.5.0	なし	
	システムリカバリ機能	Linuxの環境設定に置いて固定IP設定かつDNSアドレスが未設定の場合にエラーとなって設定できない。	プログラムを改修しました。	上 上+資源OP 特上 Rel.5.0	なし	
	システムリカバリ機能	FMV-D5110にマルチキャスト配信を行った場合、配信速度が遅い場合がある。	プログラムを改修しました。	上 上+資源OP 特上 Rel.5.0	なし	
	システムリカバリ機能	システムリカバリの後処理のユーザ指定処理の際、登録したバッチやコマンドが0を返さない場合に、エラーを無視して正常と判定するチェックボックスを追加しました。	プログラムを改修しました。	上 上+資源OP 特上 Rel.5.0	なし	
	システムリカバリ機能	「。」を先頭に利用するサービス名を指定すると、エラーとなる。	「。」を先頭に指定できないようにプログラムを改修しました。	上 上+資源OP 特上 Rel.5.0	なし	
	システムリカバリ機能	以下の条件において、サービスの編集や、サービスのプロパティを行うと、ユーザ指定処理のバッチ名や、サイレントインストールのパス名が空白で表示されてしまう。  (1)1台のシステムリカバリサーバを複数のシステムリカバリ管理機能で運用している場合に、サービスを作成していない管理機能から、サービスの編集を行った場合  または  (2)管理機能をバージョンアップ、または、レベルアップし、レベルアップ前に作成した既存の <small>マネージャールを編集した際</small>	プログラムを改修しました。	上 上+資源OP 特上 Rel.5.0	なし	UIの初期表示が壊れるだけで、既存サービスの動作には問題ありません。
	システムリカバリ機能	システムリカバリクライアント機能において、システム的环境変数(%TEMP%)を変更した場合、正常に動作しない。	プログラムを改修しました。	上 上+資源OP 特上 Rel.5.0	システム的环境変数を変更しないようにしてください。	
	システムリカバリ機能	ドメイン参加用のユーザ名指定において、パスワードの文字数制限が14文字となっている。しかし、Windows2000以降のユーザアカウントはパスワードに14文字以上指定することが可能なので、14文字という制限を解除して欲しい。	プログラムを改修しました。	上 上+資源OP 特上 Rel.5.0	なし	
	システムリカバリ機能	瞬快R4.0/RS.0のシステムリカバリ機能において、イメージ取得を行ったヒナ型クライアントが固定IPアドレスでの運用の場合、イメージ配信時にそのヒナ型クライアントも配信対象に含めてイメージ配信した場合、IPアドレスの衝突が起こり、正しくイメージ配信(正確にはイメージ配信処理後の後処理)が行えない。	プログラムを改修しました。	上 上+資源OP 特上 Rel.5.0	ヒナ型クライアントを配信対象に含めないようにしてください。	
	WindowsUpdate連携機能	システムリカバリ機能で利用するひな型コンピュータに対して、ひな形作成前にWSUSでの動作実績がある場合、そのひな型を配信したクライアントは、WSUSの管理コンソールからクライアントPCの制御が出来なくなる。(全てのクライアントPCが一台として認識されます)	プログラムを改修しました。	上 上+資源OP 特上 Rel.5.0	システムリカバリ機能で利用するひな型に対して、事前にWSUSを利用したバッチ適用はしないようにしてください。	
	WindowsUpdate連携機能	Windows Update管理機能の新規スケジュール作成処理で、以前設定した詳細設定内容を保持するように修正しました。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0	なし	
	ウイルス対策ソフト連携	SymantecAntiVirus CorporateEdition10.1との連携に対応しました。	設定を見直しました。	ALL Rel.5.0	なし	
	管理機能	複数のクライアントを選択し、「クライアントPCの環境設定、を実行した場合、「リモートログオンタイプの取得に失敗しました。」が表示される場合がある。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0	電源オフのクライアントPCを除外して選択すれば現象は発生しません。	
	管理機能	管理機能で最新の情報に更新を実行すると、まれにクライアントの状態が「プロトコルエラー」と表示され、以降そのクライアントを操作できなくなる。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0	なし	
	管理機能	管理機能からクライアントの電源オフを行った場合、電源が落ちずに「電源を切る準備ができました。」のメッセージが表示される場合がある。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0	なし	
	管理機能	瞬快管理機能を起動する際、サーバ名に17文字以上のサーバ名を指定する。その管理機能をアンインストールしようとする、エラーが発生する。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0	なし	

対応製品レベル	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
	クライアント機能	ChemOfficeがインストールされている環境下で以下の操作を行うと、「Microsoft SQL Server Desktop Engine(以下MSDE)」のセットアップインストーラが起動してしまう。 イメージ配信後の後処理での瞬快クライアントサイレントインストール ・瞬快クライアントのアンインストール	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0	Microsoft社のサイトを参照してください。(参照URL:http://support.microsoft.com/?kbid=889289)	
	クライアント機能	ランチャーアイコンを右ダブルクリックすると、「SKE00023 テンポラリファイルの書き出しに失敗しました」のメッセージが表示される。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0	OKボタンを押下し、そのまま処理を継続して問題ありません。	
	クライアント機能	Linuxのマルチブート構成時において、Rel3.5およびRel4.0からRel5.0にバージョンアップする場合、Windows側の瞬快をバージョンアップするとLinux側のモジュールがリモートからバージョンアップできなくなる。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0	Linuxクライアントにてバージョンアップしてください。	
	瞬間復元ドライバ	エプソン社製エンデパーAT955において、瞬間復元ドライバを修復モードからバックアップモードに変更すると、変更後OSが再起動を繰り返す場合がある。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0	OS起動時にPageUpキーを押下し、簡易環境設定メニュー画面を表示し、「キャンセル」を選択してください。	
	瞬間復元ドライバ	エクスプローラにおいて、修復対象のディレクトリ内のファイルをコピー、またはリネームした時、コピーで作成されたファイル、またはリネームしたファイルのプロパティ情報が欠落する。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0 ファイルフォルダ 単位	なし	
	瞬間復元ドライバ	Ulead社の「DVD MovieWriter 4」にてビデオデータをキャプチャし、「キャプチャ終了」ボタンを押すと、「キャプチャ失敗、キャプチャしたファイルが壊れている可能性がありますので削除する」と表示され、キャプチャできない。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0 ファイルフォルダ 単位	なし	
	瞬間復元ドライバ	修復対象となっているファイルを編集する場合、エクスプローラでそのファイル一覧を参照していてもファイルサイズ・タイムスタンプの変更結果が即時反映されない。 ('最新の情報に更新'を実施することで反映される)	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0 ファイルフォルダ 単位	'最新の情報に更新'を実施してください。	
	瞬間復元ドライバ	一般ユーザ権限で、フリーソフトのLHAPlusにてファイル圧縮を実行すると、エラーとなり圧縮できない。 (管理者権限ユーザの場合は問題なく圧縮される)	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0 ファイルフォルダ 単位	管理者権限ユーザにてLhaplusを利用してください。	
	瞬間復元ドライバ	瞬快クライアント機能を修復無効モードでインストールされている環境をイメージ取得し、ディスクイメージの配信を行う。配信後、クライアントPCを起動し、ログオンするとスバナーアイコンが赤色で表示される場合がある。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0	なし	
	瞬間復元ドライバ	sophos antivirusがインストールされている環境において、瞬快のドライバが停止してしまう場合がある。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0 ファイルフォルダ 単位	なし	sophos antivirusと瞬快がウイルス対策ソフト連携しているわけではありません。
	瞬間復元ドライバ	MacromediaのFreeHandMXというソフトで一般ユーザ権限で、新規ファイル作成を行うとファイルの作成に失敗してしまう場合がある。(管理者権限ユーザでは問題なし)	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0 ファイルフォルダ 単位	管理者権限ユーザにてFreeHandMXを利用してください。	
	瞬間復元ドライバ	瞬快をファイル・フォルダ単位でインストールした後、修復対象内にEXEをコピーしてから、コピー先のEXEを実行すると、タスクマネージャにて表示されるプロセス名が、テンポラリファイル名(4aなど)になってしまう。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0 ファイルフォルダ 単位	なし	
	資源配付機能	管理機能から資源配付タブを開き、配付指示を出した時、画面右下のフレームの「処理日時」列に表示される日時情報が、指示を出した日時ではなく資源を登録した日時になっている。 正しくは、配付の指示を出した日時が入るべきである。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0	F5キーを押下し最新情報を取得しなおすと、正しい日時が表示されます。	
	資源配付機能	資源配付を行なうと、リモートログオンタイプがSKGINAからSfllogonになってしまう	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0	なし	
	資源配付機能	cygwinのインストールされた環境でアプリ登録を行うとアプリケーションエラーが発生することがある。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0	なし	
	リモート画面操作	以下の操作を行うと、画面左上の<ツールパネル>-<リモート操作モード>は[個別選択モード]が有効な状態になっているが、画面右側のリモート操作ウィンドウは[全台選択モード]になってしまう。  1.リモート管理機能を起動する 2.個別選択モードをクリックする 3.セッションを接続したままクライアントをシャットダウンする 4.その状態でクライアントを起動する。この間、リモート画面操作機能は起動したままの状態 5.<ツールパネル>-<接続>を選択し、再度セッションを接続する。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0	なし	
	リモート画面操作	瞬快Rel.5.0のリモート画面操作機能と、類似サードパーティ社製のリモート画面操作機能が同居した場合、Windows起動時にWinlogon.exeのアプリケーションエラーが発生しブルー画面になることがある。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0	なし	
	リモート画面操作	リモート画面操作機能で1台だけモニタリングしている状態で「一覧表示画面」に移動し一度「モニタ停止」を実行すると、そのあと「モニタ開始」ができない。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0	なし	

対応製品レベル	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
	リモート画面操作	リモート画面操作機能をインストールしているPC上にイベントログが不定期に発生している。 イベンID:262 ソース:PlugPlayManager 説明:サービス "SKBlackd" は電源イベント要求を拒否しました。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0	なし	
5.0b	クライアントインストーラ	修復無効モードでクライアントを版数アップ・バージョンアップしても、モジュールが更新されない場合がある。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0a以前	更新モードにて版数アップ・バージョンアップしてください。	修復無効モードからのクライアント版数アップ・バージョンアップにおいて、再起動の回数が1回増加しています。
	クライアントインストーラ	アンインストール時に、リモート画面操作関連のレジストリが残る。	プログラムを改修しました。	ALL Rel5.0a以前	なし	
5.0d	ウイルス対策ソフト連携	McAfee社Managed Total Protectionとの連携に対応しました。	設定を見直しました。	ALL Rel5.0a以前	Managed Total Protectionアップデート前に、瞬快クライアントを修復無効モードに変更しておき、Managed Total Protectionアップデート後に修復モードに変更してください。	
	ウイルス対策ソフト連携	Microsoft Windows Defenerとの連携に対応しました。	設定を見直しました。	ALL Rel5.0b以前	なし	
	クライアント機能	瞬快クライアントの環境設定画面を開き、設定変更をしないで環境設定画面を閉じたときに再起動が必要となるように修正しました。	プログラムを改修しました。	ALL Rel5.0b以前	なし	
	クライアントインストーラ	クライアントインストールのパスワード入力(最大8文字)に際し、ディスプレイ環境によってはパスワード入力フィールドが7文字までしか受け付けられないことがある。	プログラムを改修しました。	ALL Rel5.0b以前	なし	
	クライアントインストーラ	資源配付用ユーザアカウントを指定するセクションで、ピリオドを含むアカウント名で実行すると「ピリオドとスペースだけのログオンIDは使用できません。」の旨のエラーメッセージが表示される。	プログラムを改修しました。	ALL Rel5.0b以前	なし	
	クライアントインストーラ	クライアントをアンインストールするとき、クライアントをインストールしたフォルダに含まれるファイルフォルダが削除されてしまう。	プログラムを改修しました。	ALL Rel5.0b以前	なし	
	クライアントインストーラ	コンピュータ名、ドメイン名の禁則文字として"]"がチェックされていない。	プログラムを改修しました。	ALL Rel5.0b以前	なし	
	瞬間復元ドライバ	IEからPDFやモジュールなどのDownloadを行い、修復対象領域にファイルを保存すると、Zone.Identifierのファイルが作成されてしまう。	プログラムを改修しました。	ALL Rel5.0b以前	なし	ファイルフォルダ単位
	管理機能	瞬快管理機能でF5キーによる最新情報取得を行うと、SkConsole.exeがダンプファイルを出力してハングアップする場合がある。	プログラムを改修しました。	ALL Rel5.0b以前	なし	
	管理機能	Rel5.0,Rel4.0c以降の管理機能から、瞬快Rel4.0c以降のクライアントのプロパティを表示した場合に修復対象/対象外の情報が表示できない。	プログラムを改修しました。	ALL Rel5.0b以前	なし	
	管理機能	瞬快管理機能のリモートログオン機能において、リモートログオン、リモートログオフを繰り返している、クライアントがリモートログオンを受け付けなくなる場合がある。	プログラムを改修しました。	ALL Rel5.0b以前	なし	
	システムリカバリ機能	瞬快管理機能を起動し、プロパティからMACアドレスを修正したり、IPアドレスを編集する際、その編集内容が次回システムリカバリ管理機能起動時まで反映されない。	プログラムを改修しました。	上 上+資源OP 特上 Rel.5.0b以前	なし	
	システムリカバリ機能	FPDにて配信後のドメイン参加処理で「リブート命令を送信しました。ターゲットからのPXE要求を待っています。」msgが出てタイムアウトになる。	プログラムを改修しました。	上 上+資源OP 特上 Rel.5.0b以前	なし	
	システムリカバリ機能	システムリカバリ管理機能のサービス名の禁則文字として"?"がチェックされない。	画面を修正しました。	上 上+資源OP 特上 Rel.5.0b以前	システムリカバリ管理機能のサービス名には"?"を使わないで下さい。	
	システムリカバリ機能	srordwiz.exeの初期画面にあるシステムリカバリユーザ名の禁則文字チェックがされていない。	プログラムを改修しました。	上 上+資源OP 特上 Rel.5.0b以前	なし	
	システムリカバリ機能	システムリカバリ機能では、サービス名を重複して登録できるパターンがある。	プログラムを改修しました。	上 上+資源OP 特上 Rel.5.0b以前	サービス名は重複しないように登録してください。	
	システムリカバリ機能	システムリカバリ機能を利用してディスクイメージの配信を行った後、後処理を行う最中で、GetAdapInfo.exeがアプリケーションエラーを出力し、後処理が途中停止してしまう場合がある。	プログラムを改修しました。	上 上+資源OP 特上 Rel.5.0b以前	なし	
	システムリカバリクライアントインストーラ	コンピュータ名、ドメイン名の禁則文字として"]"がチェックされていない。	プログラムを改修しました。	上 上+資源OP 特上 Rel.5.0b以前	なし	
	資源配付機能	資源配付機能でhostsファイルを配付したが、hostsファイルの内容が名前解決で使用されない。	プログラムを改修しました。	並+資源OP 上+資源OP 特上 Rel.5.0b以前	なし	
	資源配付機能	資源適用のResApply起動時、アプリケーションエラーが発生することがある。	プログラムを改修しました。	並+資源OP 上+資源OP 特上 Rel.5.0b以前	なし	

対応製品レベル	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
	資源配付機能	瞬快クライアントと管理機能が同居しているPCにおいて、管理機能からアプリケーション登録を実行するとマスターログ作成時に処理が失敗する。	プログラムを改修しました。	並+資源OP 上+資源OP 特上 Rel.5.0b以前	なし	
	資源配付機能	サーバ選択時、アプリケーションエラーが発生する場合がある。	プログラムを改修しました。	並+資源OP 上+資源OP 特上 Rel.5.0b以前	なし	
	資源配付機能	Managed Total Protectionインストール環境にてアプリ登録を行うと、ファイルが見つからないというエラーが発生する場合がある。	プログラムを改修しました。	並+資源OP 上+資源OP 特上 Rel.5.0b以前	なし	
	WindowsUpdate連携機能	WindowsUpdate連携で、アップデートサーバ名の指定をするときに、末尾にWSUSAdminをつけた場合に警告メッセージを出すように変更しました。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0b以前	なし	
	WindowsUpdate連携機能	WindowsUpdate連携処理において、クライアントPCがパッチ適用後、修復無効モードから修復モードへ変更するタイミングでファイル置換え予約が入る場合、クライアントが修復無効モードのまま処理が中断する。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0b以前	WindowsUpdate連携を更新モードにて実施してください。	
	WindowsUpdate連携機能	WSUS SP1をアップデートサーバに指定してWindowsUpdate連携処理を実行すると169(-2147467262)が返され、WindowsUpdate連携処理が動作しない場合がある。	処理ロジックを見直しました。	ALL Rel.5.0b以前	なし	
	WindowsUpdate連携機能	WindowsUpdate連携処理を実行し、起動直後のモード変更処理でエラーが発生した場合、3時間後にタイムアウトとなる。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0b以前	なし	
	リモート画面操作	キーマスのロックでロック中のクライアントに対し、リモート画面操作機能のコンソールより特殊キー「Ctrl+Alt+Del」を送信しても反応しない。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0b	なし	
	コマンド	複数環境(派生環境)において、更新モードの状態ではRCHMODEの修復タイミング指定を「毎日起動時修復」以外を設定しても、モード変更後の修復タイミングが「毎日起動時修復」になってしまう。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0b以前 複数環境(派生環境)	なし	
	コマンド	修復無効モードの状態ではRCHMODEの修復タイミング指定を「一日一回修復」や「毎週 曜日修復」等の修復スケジュールの指定が反映されず、「毎日起動時修復」になってしまう。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0b以前 ファイルフォルダ 単位 Windows2000	なし	
5.0e	機能追加	次のウイルス対策ソフトに対応しました。	・F-Secureアンチウイルス クライアントセキュリティ ver 7.0 ・McAfee VirusScan Enterprise 8.5i	ALL Rel.5.0d以前	なし	対応しているウイルス対策ソフトについては、瞬快のReadme.txtを参照ください。
	機能追加	次のソフトと瞬快クライアントの共存に対応しました。	AutoCAD2007	ALL Rel.5.0d以前	なし	
	機能追加	クライアントPCのプロパティで入力できるコメント情報を管理機能のリモート操作タブ画面のクライアントリストに表示できるようにしました。		ALL Rel.5.0d以前	なし	
	クライアント機能	瞬快のログオンパネルの設定機能にて、ログオン先のドメイン名を設定した環境において、ログオンパネルでCtrl+Alt+Delキーを押下し、その後ESCキーを押下し、再度Ctrl+Alt+Delキーを押下すると、ログオン先が「ドメイン」から「ローカル」になってしまう場合がある。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0d以前	ログオンパネルの設定を行う前に、ドメインにログオンしてください。(一度でもドメインにログオンした後はワークグループに戻しても問題ありません。)	
	クライアント機能	Launcher.exe(タスクバーの「瞬快」アイコン)のプロセスが、起動直後にCPU使用率100%になる場合がある。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0d以前	一度ログオフし、再度ログオンすることで回避できます。	
	クライアント機能	修復スケジュールを「毎日起動時」以外に設定している場合に、修復無効モードに変更し、再度修復モードに変更すると、修復スケジュールが引き継がれず「毎日起動時」に設定されてしまう。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0d以前	動作モード変更時に修復スケジュールを必ず設定してください。	
	瞬間復元ドライバ	他社製ソフトウェアとの組み合わせによって、運用中に以下のブルースクリーンが発生する場合がある。 0x0000218 0x000000C2 0x00000050 0x000000F4 0x0000008E また、OSが突然再起動したり、OS起動時に「前回OSが正常に終了していない」旨のメッセージが表示される場合がある。	現象を回避するロジックをプログラム内に組み込みました。	ALL Rel.5.0d以前	組み合わせによって問題の発生するソフトウェアを、最新バージョンにアップするもしくはアンインストールを行うことによって回避できる場合があります。	
	瞬間復元ドライバ	以下の条件を全て満たす場合に、ショートカットファイルをダブルクリックすると、ショートカットのファイルサイズが1バイトになり壊れてしまう。 ・ReadOnly属性のショートカットである。 ・リンク先を変更できないショートカットである。 ・瞬間復元ドライバがファイルフォルダ単位修復モードである。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.5.0d以前	発生条件のいずれかを除くと回避可能です。	
	瞬間復元ドライバ	システムリカバリによるWindows同士のマルチブートが構成できず、1つ目のOSがエラーとなる。	プログラムを改修しました。	上 上+資源OP 特上 Rel.5.0d	なし	

対応製品レベル	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
	瞬間復元ドライバ	cygwinにて、修復対象となっている空フォルダ内を参照したり、カレントディレクトリを移動させたりすることができない場合がある。	プログラムを改修しました。	ALL Rel5.0d以前	なし	
	瞬間復元ドライバ	ファイルシステムに異常があり、瞬快が管理するテンポラリファイルが壊れた状態で、動作モードを修復モードに変更する時に失敗する場合がある。	軽微なファイルの異常の場合は、モードの変更ができるようにプログラムを改修しました。	ALL Rel5.0d以前	CHKDSKを実行し、ファイルシステム異常を修復した後に、ドライブのルートに存在する\$ から始まるフォルダを削除してから、修復モードへの変更を行ってください。	
	瞬間復元ドライバ	PhotoshopなどのMBR更新型の認証方式をとっているソフトウェアが再アクティベーションを求められる場合がある。	プログラムを改修しました。	ALL Rel5.0a～5.0d	なし	
	管理機能	瞬快管理機能からリモートログオンするユーザまたは、瞬快管理機能起動時に問われるシステムリカバリユーザのパスワードが32文字以上の場合に、処理に失敗する場合がある。	プログラムを改修しました。	(1)はALL (2)は上,特上のみ Rel5.0d以前	パスワードの長さを32文字より短くしてください。	
	システムリカバリ機能	ディスクイメージの移動インポートを行った際、インポート処理に失敗すると、元のイメージファイルが削除されてしまい、復元できなくなる。	プログラムを改修しました。	上 上+資源OP 特上 Rel.5.0d以前	なし	
	システムリカバリ機能	クライアントPCのリモート登録機能において、複数のクライアントPCにDHCPサーバから同じIPアドレスがリースされる環境では、登録処理に失敗する。	プログラムを改修しました。	上 上+資源OP 特上 Rel.5.0d以前	なし	
	システムリカバリ機能	クライアントPCのリモート登録機能において、すでにシステムリカバリサーバに登録されているクライアント名を指定した場合、アプリケーションエラーが発生する場合がある。	プログラムを改修しました。	上 上+資源OP 特上 Rel.5.0d以前	なし	
	システムリカバリ機能	システムリカバリ管理機能を利用する際、サービスのコピーを利用して新しいサービスを作成し、そのサービスを実行しようとすると、「パラメータエラーです。」とメッセージが表示されて正しく実行できない場合がある。	プログラムを改修しました。	上 上+資源OP 特上 Rel.5.0d以前	コピーしたサービスを編集し、再登録してください。	
	システムリカバリ機能	システムリカバリ機能を利用して、ディスクイメージの配信を行い、固定でDNSサーバを設定すると、DNS設定のひとつである、「この接続のアドレスをDNSに登録する」の設定を無効にしても、有効となってしまう。	左記に示すDNS設定を、引継ぐようにプログラムを改修しました。 ただし、Windows XP上でSysprepを利用してイメージを展開する場合は、Sysprepにより設定が初期化され、引き継ぐことができません。	上 上+資源OP 特上 Rel.5.0d以前	イメージ配信後、各クライアントPCのDNS設定を手動で変更してください。	
	リモート画面操作	一般ユーザでログオンした時にパスワード制限付きのスクリーンセーバが起動しない場合がある。	プログラムを改修しました。	ALL Rel5.0d以前	なし	
	資源配付機能	ファイル登録画面のツリー表示にて、2バイト目が0x5Cの文字コードである全角文字を含むフォルダ配下の情報が正しく表示されない。 例:「能」「表」「ソ」などの文字。	プログラムを改修しました。	ALL Rel5.0d以前	該当する文字をフォルダ名に使用しないようにしてください。	